2002年度市立小・中学校 使用教科書が採択されました

町田市教育委員会は、8月3日に開催された第5回定例教育委員会において、2002年度から使用する市立小・中学校の教科書を別表のとおり採択決定しました。

当日は、100名をこえる傍聴者が見守る中、教科用図書調査審議会の答申等を参考に各教育委員が審議を行い、午前中に小学校、午後には中学校と障害学級の教科書を順次採択しました。

今回の教科書採択にあたり教育委員会は、①採択における教育委員会の役割と権限の明確化、②専門的な調査研究の充実、③開かれた採択の推進、の3点に重点を置き「町田市立小・中学校教科用図書採択要綱」を改正するとともに、採択方針及び選定基準を次のように定めました。

採択方針

町田市教育委員会は、2002年度使用の教科用図書の採択に当たって、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に則り、審議会の答申及び調査研究機関の報告等を参考に、自らの責任と権限において町田市の児童・生徒に最も適した教科用図書の採択を行う。

選定基準

1 内容
(1) 各教科等の目標や内容をふまえているか
(2) 児童・生徒の学習意欲や発達段階に配慮しているか
(3) 各教科等の特質に即した考え方や学習活動に配慮しているか

2 構成・分量
(1) 基礎的基本的な内容と発展的な内容がわかりやすく配列されているか
(2) 各単元や領域の分量は適切か

3 表記・表現及び使用上の便宜
(1) 児童・生徒にわかりやすい適切な表現になっているか
(2) 町田市の児童・生徒の実態や地域性に合っているか

また、教科書の採択を公平かつ適正に行うため、教科用図書調査審議会に調査を諮問。同審議会では、調査研究委員会を設置し、選定基準に基づき各教科ごとの調査研究を行うとともに、各学校単位での調査研究も実施しました。加えて、6月8日から7月11日まで教科書展示会を行い、寄せられた保護者・市民の意見等も審議会で参考にし、7月30日、調査結果を教育委員会に答申しました。

一方、定例教育委員会の採択審議に先立ち、各教育委員は実際に教科書を手にとり検討、答申書の提出後は、答申内容や調査結果を参考に連日詳細な協議・検討を重ねました。

今回の教科書採択にあたっては、審議会の委員の方々、各学校の教職員が全種類の教科書の調査研究に取り組みました。保護者・市民の方々からも多くの意見をいただきました。採択へのご協力誠にありがとうございました。

お問い合わせは、指導課（☎724・2178）へ。

2002年度町田市立小・中学校教科用図書一覧

	種目	教科書名	発行者名
小学校	国語	国語	光村図書出版
小学校	書写	書写	光村図書出版
小学校	社会	小学社会	教育出版
小学校	地図	楽しく学ぶ小学生の地図帳　4・5・6年　最新版	帝国書院
小学校	算数	みんなと学ぶ　小学校　算数	学校図書
小学校	理科	小学理科	教育出版
小学校	生活	せいかつ	教育出版
小学校	音楽	新しい音楽	東京書籍
小学校	図画工作	図画工作	開隆堂出版
小学校	家庭	小学校　わたしたちの家庭科	開隆堂出版
小学校	保健	みんなの保健	学習研究社

	種目	教科書名	発行者名
中学校	国語	伝え合う言葉　中学国語	教育出版
中学校	書写	中学書写	光村図書出版
中学校	社会(地理的分野)	社会科　中学生の地理　世界のなかの日本　最新版	帝国書院
中学校	社会(歴史的分野)	新しい社会　歴史	東京書籍
中学校	社会(公民的分野)	新しい社会　公民	東京書籍
中学校	地図	新編　中学校社会科地図　最新版	帝国書院
中学校	数学	中学校　数学	学校図書
中学校	理科(第一分野)	新しい科学　1分野	東京書籍
中学校	理科(第二分野)	新しい科学　2分野	東京書籍
中学校	音楽(一般)	中学生の音楽	教育芸術社
中学校	音楽(器楽)	中学生の器楽	教育芸術社
中学校	美術	美術	日本文教出版
中学校	保健体育	中学保健体育	学習研究社
中学校	技術・家庭(技術分野)	新しい技術・家庭　技術分野	東京書籍
中学校	技術・家庭(家庭分野)	新しい技術・家庭　家庭分野	東京書籍
中学校	外国語(英語)	NEW CROWN ENGLISH SERIES	三省堂

町田の野鳥

異国に生きる画眉鳥の

初夏に、篠竹や下草の茂った雑木林で、かん高く叫ぶ鳥が出現しました。ここ数年のことです。時には林縁（りんえん）の枝先で鳴いていますが、大抵茂みの中を移動していますので、見かけることはまれです。

声の主はガビチョウです。台湾、中国南部などに分布し、本来は日本に分布しません。つまり日本の野鳥でなく、飼い鳥が逃げ出し野生化した「かごぬけ」なのです。「町田の野鳥」でもありませんが、敢えてガビチョウの弁明をと。

大きさはツグミくらいです。鳴き声はクロツグミに似ますが、大声は爆竹を連想させ、美声ですが日本の風情に馴染まない感があります。頭や胸に黒い斑点がありますが、全身褐色の固まりに見える地味な鳥です。しかし、体色とは逆に目の回りの白線は実に明瞭で、目の回りから後方に白いラインが続き、なるほど「画眉」だと納得の隈取り模様をしています。

八〇年代の中頃、藤野の山中で繁殖が確認されています。かごぬけが生き延びたのでしょうか。町田市では、九三年春の大地沢付近での観察記録が初のようです。以来、大地沢、城山湖周辺でずっと観察されています。

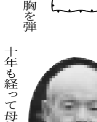
ところが、九八年から細々と生き抜いているという状況が一変します。相原の雑木林のあちこちでガビチョウが歌い出し、二年を待たず、小野路や鶴川の雑木林まで広がりました。かごぬけから「帰化動物」として爆発的な繁殖をしたのでしょうか。それとも風評のごとく、輸入業者が高尾山麓へ多数を捨てたのでしょうか。中国ではガビチョウの鳴き合わせをするそうですが、日本では少々賑やかすぎて敬遠されたのでしょう。

帰化動物の定着で、その地域固有の生態系は混乱します。やがて地域の生態系の固有性と歴史が失われると、生物学者は指摘します。しかし、ガビチョウの立場からすれば、人間の手を借りて海を越え、生活圏を拡大したわけです。異国に生きるガビチョウの夢は、この国で市民権を取ることかもしれません。

（町田野鳥の会　太田信行）

想い出のわが母校

□ 南中学校 □



加藤薫憲

「リンゴの唄」を聴くと、ひもじさやオンボロ校舎が脳裏をよぎります。「開校式は食い込むような惨めさだけが残っている。でも生徒は明るかった」と述懐する先生もいました。開校当時の思い出として、校舎や校庭の整地作業、欅（けやき）の木などには特に感慨深いものがあります。

南中学校は、昭和二十二年五月一日、先生十余名、生徒二百八十余名で開校しました。私は一年生です。敗戦、飢餓、貧困とまだ皆が生活の苦しさを負っている時代ですが、南多摩で唯一独立した校舎を持った一町村に一校という新制中学校として誕生しました。

独立校舎で開校といっても、一年生の一学期は、閉鎖された軍需工場の寄宿寮が仮校舎でした。部屋には窓枠も扉もなく床は穴だらけです。毎日生徒が持参するムシロを敷いての座学で、教科書も黒板も机もない授業が続きました。

二学期になって、この工場の青年学校用だったという半完成の木造二回建て八教室の建物が補修され、そこに移りました。壁は下地のままで、隣の教室がのぞけます。壁には新聞紙をはって一冬を過ごしました。何と言っても黒板や机が設置され、風雨の心配から解放されたことは大変嬉しく、胸を弾ませてくれました。

独立校舎と広い校庭

校庭は、身の丈ほどもある雑草が密生したデコボコな広い空き地でした。先生も生徒も裸足になって、草を抜き、自宅から持参の鍬（くわ）やシャベルで整地してローラーをかけ、平らに固めます。校庭作りの作業は三年生の一学期まで続けたかいがあり、硬式野球ができる校庭になりました。この三年間誰も愚痴や不平を言わなかったことが強く印象に残っています。

校庭の境界近くには、直径十センチほどの欅が工場時代から十数本植えてありました。卒業後、三十年も経って母校を訪れた時、現在校庭にある大きな欅は、あの時の一本が残ったものだと知り、南中学校の象徴のように思えて感激しました。

暖房設備もなく、上履きは皆藁草履です。教室には藁ゴミが散乱しますが、私たちの足先を温めてくれる大切な履物でした。

そんな時代に、たとえオンボロ校舎でも独立校舎があったお蔭で、南中生は他校の生徒とは違った経験をしたと思います。「最低生活を知る者にとっては、全てが希望であり向上である」といつも励ましてくれたのが、私の母校、南中学校です。

（南中学校同窓会会長）

開校時から残る欅の大木、当時は直径10㎝ほどであった（写真上）。昭和25年2月の朝礼風景と校舎（下）

子どもたちの目が輝くとき

新しい学校づくりへの模索 総合的な学習の時間の試み

つくし野中学校は18学級ある大規模校です。周囲には公園が点在しておりプラタナスの並木の元には、お年寄りの会が育てた四季折々の花が見られます。そこは部活動の格好のランニングコースになっています。今年は陸上部から関東大会にも出場しました。

「COT活動」というものがあります。放課後、生徒会と委員が有志を募り地域を清掃します。ゴミの分別はPTAや父親の会、地域の方も協力して下さいます。汗を流した後の用意して下さった冷たいフルーツポンチは格別です。学年を越えた交流や地域を知り、ひいては環境について考えることが自然な形で定着しているのです。

来年度から新学習指導要領が本実施されますが、本校では生徒・教師・家庭・地域が一体となった新しい学校づくりを目指して、平成10年度から準備を進めてきました。保護者対象に「期待する子ども像」についてのアンケートを実施し、生徒には変化する社会と新しい学力観や新たに導入される「総合的な学習の時間」に関するビデオ（NHKで放映）を上映しました。難しい内容のものでしたが教師も共に学ぶというスタンスで、率直にぶつけ感想を書いてもらいました。また、今一番興味・関心があることは何かを調査しました。地域の方には今年度発足した学校運営協議会で建設的な意見をいただいております。

本校では平成12年度から総合的な学習の時間を既に導入しています。「自ら学ぶ～環境と自然体験」「自ら創造する～文化と社会体験」というテーマに沿った課題を各自が興味・関心に応じて設定しています。二年生は野辺山移動教室を利用して調査や観察、ものつくり体験をし、ノートや壁新聞にまとめ文化祭で発表しました。一年生のあるグループはゴミのポイ捨てを寸劇にし、コミカルに演じて環境問題を提起していました。本校はインターネットモデル校でもあり、これを利用して調べ学習をする生徒も多数います。また図書室では保護者のボランティアの方が生徒を支援して下さっています。

昨今、分数の計算ができない大学生が増加していると聞きます。生徒からも「方程式を勉強してどうなるの？」とよく聞かれます。そもそも学校とは何をする所でしょうか。「学ぶ」は「まねる」が語源だそうです。まねが創造につながるのだと思います。無から有は生じません。

社会は変革期を迎えていますが、この時こそじっくり腰をすえて多くの方と語り合い「新しい学校づくり」を進めていきたいと思います。ご協力をお願いいたします。

（つくし野中学校教諭　力丸康弘）

「研究テーマはこれだ！」総合的な学習の時間

出張教育相談

教育相談所では、下記の日程で出張相談を行います。不登校、進路の悩みなど、子どもたちの問題について、専門の相談員がお答えします。お気軽にお出掛け下さい。時間は各会場とも午前10時から正午までです。あらかじめ電話でお申し込み下さい。

教育相談所 ☎723・4396

出張教育相談日程表

会場	11月	12月	1月	2月	3月
なるせ駅前市民センター	1日(木)	18日(火)	15日(火)	7日(木)	7日(木)
子どもセンター	8日(木)	13日(木)	10日(木)	14日(木)	14日(木)
堺市民センター	13日(火)	4日(火)	22日(火)	19日(火)	5日(火)
鶴川市民センター	6日(火)	11日(火)	18日(金)	5日(火)	12日(火)
忠生市民センター	15日(木)	6日(木)	24日(木)	12日(火)	19日(火)

教育委員会の動き 4月～9月

2001年4月から9月までの間に定例会6回、臨時会3回を開催。42件の議案と4件の請願を審議し、41件の報告を受けました。その主なものをお知らせします。

【議案】

○町田市立小中学校職員の勤務時間内職員団体活動に係わる不適切な服務処理に関する措置について可決されました。
○職員の服務違反に対する処分について可決されました。
○各種行政委員の委嘱について同意されました。
○町田市立学校設置条例の一部を改正する条例（案）について可決されました。
○町田市立学校の通学区域の変更について可決されました。
○町田市文化行政功労者への感謝状の贈呈について同意されました。
○2002年度使用教科用図書について採択されました。

【請願】

○教科用図書採択に関するもの・・4件（不採択4件）

【報告事項】

○生涯学習部の各種展覧会について
○本町田西小学校・緑ヶ丘小学校・原小学校統合準備会報告書について
○学校図書館充実検討委員会報告について
○卒業式実施状況について
○平成12年度就学相談結果について
○2001年度教育相談シンポジウムの案内について
○平成13年度教育課程編成状況調査結果について
○子ども議会開催について
○夏休み子どもフェアーについて
○図書館蔵書点検時における不明資料数について
○町田市文学館構想に関する提言委員会の答申について
○町田市図書館協議会の提言について

自分再発見

最初で最後の唯一無二の日

新しい町田の成人式に向けて

鈴木健（たける）

人間として、一生にたった1回しか体験できない日々があります。どんなに望んでも、決して反復できない最初で最後の日々があります。私はそれを「唯一無二の日」と呼びます。

厳密に考えるならば、同じ日はありません。昨日と今日は違うし、今日と明日も違うでしょう。しかし、私がここで扱いたいのは、誰もがたった1回しか体験できない記念日たちのことなのです。

あなたも私も、同じ誕生日を繰り返すことはできません。1歳の記念日はたった1回きり、10歳になってもそれは変わりません。生まれてきた日も1回きり。そして、やがて訪れるこの世との送別記念日も1回きりです。

私はこれら「唯一無二の日」たちを、もっと素敵な日にしたいと思います。絶対に2度と体験できない記念日たちを、もっと豊かにしたいと思います。それは、人間が生きていることへの賛美です。純粋に、わたしたちが生きていることへの賛美です。

誕生日という「唯一無二の日」を迎え、みなさんは何を感じますか？ まだまだ若いと笑いますか？ もう年だと嘆きますか？ それとも、そんなことを考える余裕が無いほど幸せですか？ 誕生日を迎えて私が感じることは、「ただ」生きていることの素晴らしさ、「ただ」生きていることの有り難さです。「ただ」生きること、生きているだけのことが、どんなに大変なことか、どれだけの奇跡の集大成であるかということを、名状し難い思いで感じます。そして、生きていることへ感謝します。「ただ」生きていることに感謝します。それは未来への希望です。生命への敬愛です。

現代は、「ただ」生きていることの奇跡を感じることが少ない時代です。それだけ安全で安心して暮らすことのできる社会に私たちは生きているからです。だからこそ私は、「唯一無二の日」をもっと豊かな日にしたいと思うのです。1年に1度でも、年に数回でもいい、それでも実りのある「唯一無二の日」を増やしたいと思うのです。

◇

「成人になる日」も、日本人であれば紛れもなく「唯一無二の日」です。だから私は、この日も当然実りのある素敵な記念日にしたいと思います。来年1月14日、新しい町田市の成人式『二十祭（にじゅっさい）まちだ』を開催します。本当に新成人にとって実りのある記念日、本当に「ただ」生きていることに感謝できる記念日。そんな豊かで新たな「唯一無二の日」を、ここ町田に誕生させます。

（二十祭まちだ実行委員会委員長）

「新しい成人式のすがたを考える市民懇談会」で市長、教育長等と協議する実行委員会のメンバー

新しい成人式を目指して―― 「二十祭まちだ」実行委員会が発足

二つのコンテストの募集開始！

このほど18歳から22歳の若者が中心になって、「二十祭（にじゅっさい）まちだ」実行委員会がスタートしました。委員会では、成人の日の行事の目的を、①町田から若者文化を発信する、②新成人の社会デビューを応援する、③まちを元気にする、④成人の日を生涯忘れられない日にする、ことと位置づけ、各種イベントを企画しています。その第一弾として、次の二つのコンテストの募集が始まりました。新成人の皆さん、ふるってご応募下さい。

プロデビューも夢ではない！ ステージ・パフォーマンスコンテスト出場者募集！

記念すべき年に君の特技を引っさげて、成人式の会場でデビューしよう。パワーあふれるバンド、ばかばかしいけどなぜか泣けてくるお笑い、うっとりするクラシック演奏、そんなパフォーマンスを待っています。

【資格】 市内在学・在住・在勤、または実家が町田の新成人（1981年4月2日～1982年4月1日生れ）。二人組の場合は一人が前記の新成人なら可。グループの場合は前記の新成人を二人以上含み、かつ全員が2002年1月14日当日に25歳以下であること。

【ジャンル】 音楽、ダンス、ファッションショー、大道芸、コントなどステージ発表できるパフォーマンス。

【審査会場】 町田市民フォーラム他

【発表時間】 単独、グループともに15分以内。

【参加費】 無料

【審査日】 11月26日（月）、12月3日（月）を予定。

【賞】 1月14日（成人の日）のメイン・イベントへの出場権。

【申込み方法】 各図書館など市施設に備え付けの申込み用紙に記入の上、社会教育課（〒194－0022町田市森野1－33－10）へ。FAX（724－1199）も可。

【申込み期限】 11月15日（必着）

作品募集！ ヤング・アートコンテスト 最高賞は「20歳の個展（グループ展）」開催の支援です――

個展開催は若い芸術家の夢。最高賞を獲得して市内ギャラリーで個展（グループ展）を開こう。応募資格と申込み方法は、ステージ・パフォーマンス・コンテストと同じです。

【ジャンル、サイズ】 平面、立体、映像、ファッション、工芸など、会場に自力で設置できるものなら原則としてジャンル、サイズは問いません。

【点数など】 単独の場合は、一人3点以内。グループの場合はご相談下さい。発表済みのものも可。

【出品料】 無料

【展示・審査会場・審査方法】 ぽっぽ町田（原町田4丁目）に1週間程度展示し、一般投票と専門家の審査により入賞者を決め、1月14日の「二十祭まちだ」メイン・イベント会場で表彰します。

【賞】 最高賞受賞者（複数予定）には個展（グループ展）を開く会場を市内に用意するなどの支援を行うほか、各賞を予定。

【申込み期限】 12月14日（必着）

問「二十祭まちだ」実行委員会（社会教育課☎724・2181）